

堀株海水浴場で行ったニシン稚魚の放流について

平成20年6月2、3日に泊村堀株海水浴場で、北海道栽培漁業振興公社羽幌事業所で種苗生産されたニシン稚魚30万尾の放流が行われました。また、6月4日には放流地点の周辺で地曳き網により、放流した稚魚の追跡調査が行われました。これらの作業は、後志南部地域ニシン資源対策協議会が主体となって実施されましたが、当センター水産研究科も放流地点の近くに立地していることもあり、これら作業に協力したので、その様子についてお知らせします。

放流および追跡調査の様子について

放流及び追跡調査当日は好天にも恵まれ、放流日の朝に羽幌から運んできた稚魚(体長約6cm)は、輸送してきたトラックの活魚水槽からホースを海面まで延ばして直接放流されました。放流された稚魚は弱って沈んでしまった個体も若干いましたが、大部分は元気に沖に向かって泳いでいきました。なお、放流地点の水温は15℃でした。

また、追跡調査は放流地点近傍から徐々に堀株川方面に移動しながら5回ほど地曳き網を曳きましたが、そのうち3回で今回放流したニシン稚魚が入網しました。



▲放流されたニシン稚魚



▲追跡調査で採捕されたニシン稚魚

今後の予定について

6月中にあと2回ほど追跡調査を行い、放流後のニシン稚魚の定着状況やどんな餌を食べているのかを道立中央水産試験場の研究員が調べるそうです。

数年後には成熟したニシンが岩内湾に戻ってくると思いますが、岩内湾沿岸でも海が一面真っ白に見えるという群来現象がみられることを期待したいですね。

なお、この原子力環境だよりがお手元に届く頃には追跡調査も終了していることと思いますが、堀株周辺で釣りをされていて小さなニシンが釣れた際には、道立中央水産試験場資源増殖部(0135-23-8701資源増殖部直通)まで情報を連絡お願いします。